

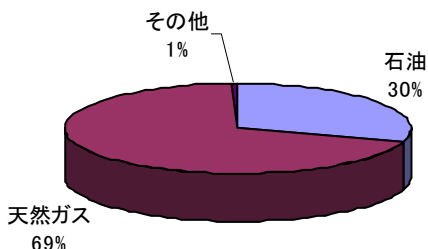
ブルネイ*

研究主幹 郭 四志**

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量(2005年) : 2.64 石油換算百万トン
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量(2005年) : 7.06 石油換算トン/人
- (3) エネルギー自給率(2005年) : 798%
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量 (2005年) : 5.09 二酸化炭素換算百万トン
- (5) 一人当たりエネルギー起源排出量 (2005年) : 13.12 二酸化炭素換算トン/人
- (6) エネルギー源別可採年数 (2006年末) : 原油 13.7年、天然ガス 27.3年。



(出所) IEA, 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition.

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 1993年1月に設立されたブルネイ石油・天然ガス庁 (Brunei Oil and Gas Authority : BOGA) がブルネイ国内の石油・天然ガスに関する全ての政策につき国王 (スルタン) に提案・助言をおこなうとともに、石油・天然ガスの探鉱・開発から生産、輸送、精製さらには省エネルギーなどブルネイの石油・天然ガスの事業活動全ての段階における計画・立案と監督の責任を負っている。2005年5月には政府主導の強力なエネルギー政策推進のため、総理府内にエネルギー大臣職を設置、任命した。

(2) 基本政策

- エネルギーの基本政策は、エネルギー資源の長期にわたる安定した生産と輸出の維持を目指し、石油・ガスの追加増産はおこなわず、新たな資源発見により埋蔵量を追加し、現行確認埋蔵量を減少させず、維持し続けるという「資源温存」を基本としている。

(3) 最近の動向

- 具体的な新しい政策をまだ未入手であるが、最近アメリカエネルギー情報局 (EIA) の

*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

** 現在、帝京大学。

カントリー分析ブリーフによると、上述のエネルギーの基本政策は、引き続き踏襲されている。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- わが国はブルネイからの LNG 輸入を 1972 年に開始した。そして 1993 年 3 月から第 2 期契約（20 年間）として年間約 550 万トンの LNG が輸入され、1999 年からはその数量が 50 万トン増加された。現在、年間 600 万トン以上の LNG が輸入されており、この LNG 貿易を通じて、わが国とブルネイはエネルギー分野で深い関係を有している。
- 2006 年のブルネイから日本への原油輸入量は前年比 43%減の 81.7 万 KL で、わが国の総原油輸入量に対する比率は 0.3%と僅かである。また 2006 年のブルネイからの LNG 輸入量は前年比 3.7%増の 639.3 万トンであり、わが国の LNG 総輸入量の 10.1%を占めている。因みに、わが国の LNG 輸入に占めるブルネイの比率は、1985 年の 18.6%、1990 年の 14.6%、1995 年の 12.6%そして 2005 年の 10.7%、2006 年の 10.1%と、その比率は低下傾向にある。

2. 主要エネルギー指標

(2005 年)

(1) 一次エネルギー供給量		2.641	石油換算百万トン
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		7.06	石油換算トン/人
(3) GDP 当たりの一次エネルギー供給		0.55	石油換算トン/千ドル
(4) エネルギー自給率		798	%
(5) エネルギー起源 CO2 排出量		5.09	二酸化炭素百万トン
(6) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量		13.62	二酸化炭素トン/人
(7) エネルギー源別構成比	石炭	0.0	%
	石油	29.7	%
	ガス	69.6	%
	原子力	0.0	%
	水力	0.0	%
	再生可能エネルギー等	0.7	%
(8) エネルギーの輸入依存度		-697%	%
(9) 石油の輸入依存度		-1,295%	%
(10) 輸入原油の中東依存度		0.0	%
(11) 原油輸入先	第 1 位		インドネシア
	第 2 位		—
	第 3 位		—

(出所) (1)～(4)および(7)～(9)は IEA「Energy Balances of NON-OECD Countries 2004-2005」2007Edition

(5)～(6)は IEA「CO2 Emissions from Fuel Combustion 1971-2004」2006 Edition

(10)～(11)は Blackwell「World Oil Trade: An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」September 2007.